

A large red slanted bar, matching the company logo, positioned to the left of the main title.

中期経営計画2023

株式会社アルメディオ

Ver.2

2023年11月2日

I. 中期経営計画2022の振り返り

II. 中期経営計画2023

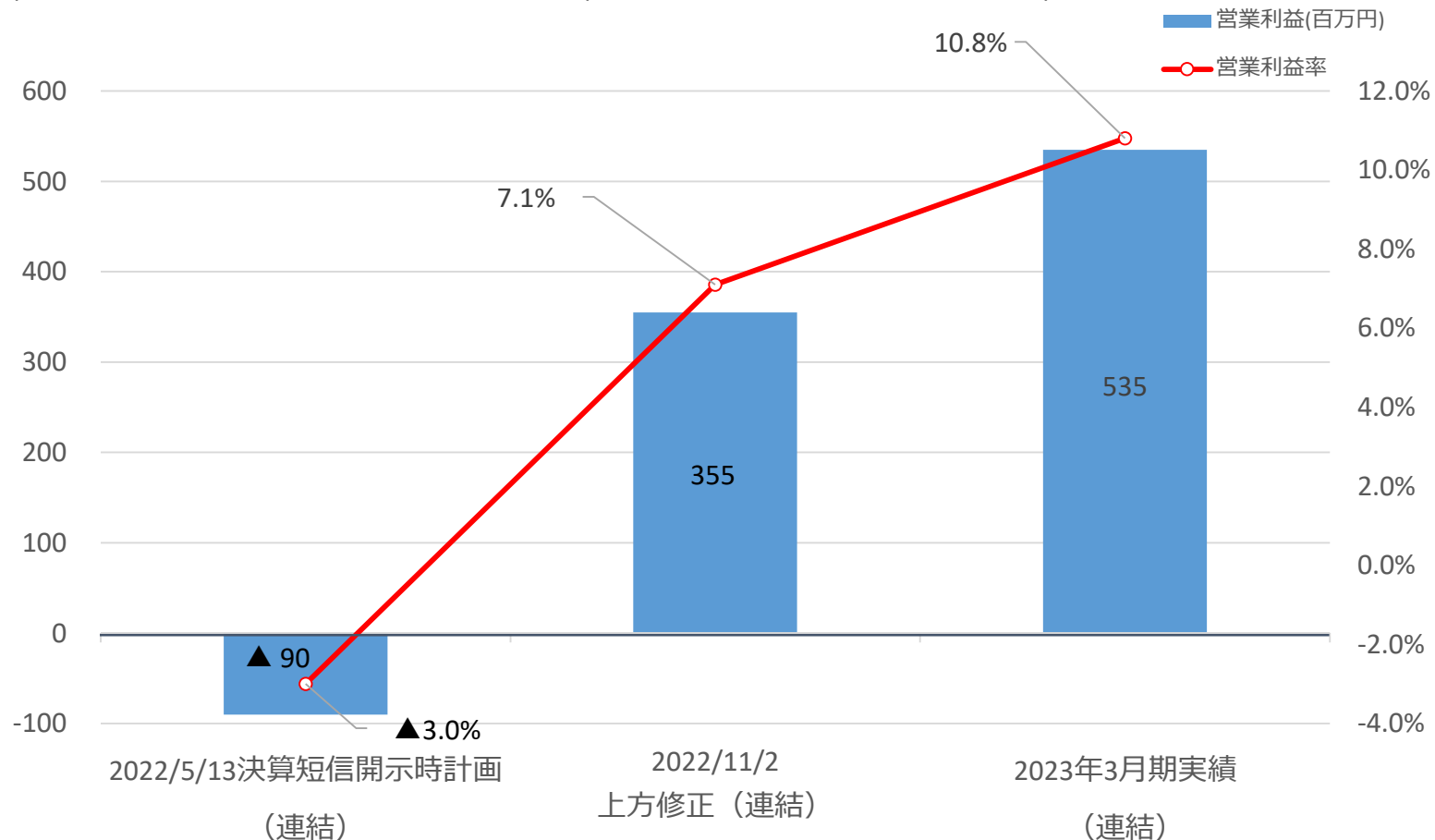
1. 基本方針
2. 計画の骨子
3. 具体的な施策
4. 計画目標

I. 中期経営計画2022の振り返り

2022/5/13決算短信開示時計画（連結）
営業利益▲90百万円
営業利益率▲3.0%

2022/11/2上方修正（連結）
営業利益355百万円
営業利益率7.1%

2023年3月期実績（連結）
営業利益535百万円
営業利益率10.8%



2023年3月期(43期)の連結営業利益は▲90百万円(営業利益率▲3.0%)を目標としていましたが、連結営業利益は535百万円(営業利益率10.8%)となり、計画値を大幅に上回りました。

具体的な施策

① ナノマテリアル事業の成長スピードアップ

⇒有償サンプル品の販売を行い、国内外共に幅広い業種へのサンプル出荷件数が増加した。本格採用の道筋が見えてきた顧客への対応を強化した結果、一部の顧客において最終段階テストを行う段階まで進展している。

2023年3月期に大きな売上寄与とはならなかったものの、産業分野で使用する部材での採用など、本採用が見込まれる分野が広がっている。

本格生産拠点である福島双葉工場稼働により、本格生産が可能となった。

② 断熱材事業の更なる成長と環境問題対策

⇒子会社・阿爾賽（蘇州）無機材料有限公司において、太陽光発電パネル製造向け拡散炉用ヒーターモジュールの販売が大幅に伸張し、売上高に大きく寄与した。

③ 成長が見込まれる事業への積極的投資

⇒福島双葉工場開設

結果：売上高・営業利益共に大幅アップ

2025年3月期の目標としていた営業利益率10%を
2年前倒しで達成した

1．基本方針

事業構造改革のスピードを上げ、
機能性材料メーカーへの転換を図る

2．計画の骨子

事業ポートフォリオの最適化を図り、
事業構造を転換し、2026年3月期
連結営業利益率**18%**を達成できる企業へ

3. 具体的な施策

- (1) ナノマテリアル事業の成長スピードアップ
- (2) 断熱材事業の更なる成長
- (3) M & Aの推進

2026年3月期

- ・ 連結売上高・営業利益過去最高 ⇒2024年3月期に2年前倒しで達成見込み
連結売上高6,674百万円 連結営業利益1,249百万円
- ・ アルメディオ単体黒字化

結果として、成長レベルに合わせたステークホルダーへの還元を目標とする

3. 具体的な施策

(1) ナノマテリアル事業の成長スピードアップ ◆ 売上の拡大 営業戦略

43期

施策

44期

新たに技術スタッフを獲得、手厚い顧客対応が可能となった

本格採用の道筋が見えてきた
顧客への対応力アップ

43期に獲得した技術スタッフを投入し、手厚い顧客対応を実施する

採用が見えてきた業界への横展開活動を実施

新規顧客の開拓（採用が見えてきた業界への横展開営業活動など）

半導体・航空機用途、リチウムイオン電池関連での受注・採用活動を継続。採用実績を元に横展開を実施し、売上寄与に繋げていく。
また、業界に精通している方と顧問契約を結び営業力を強化する

海外向けの技術資料及び環境資料の整備を行い、海外顧客向けの対応を開始

海外展開
（顧客獲得に向けたアプローチ）

実績が得られてきている顧客にアプローチを実施する

継続的に活動を実施

自動車、インフラ、航空機業界への
重点展開

継続的に重点分野として捉えており、引き続き活動を実施する

継続的に活動を実施し、数件のテーマが進行

スポーツ、レジャー業界の開拓

進行中のテーマについての採用を目指す

CNF特性をより把握し、対応可能な分野に展開した

アプリケーション提案力の強化

進行中のテーマについての採用を目指す

43期中の営業スタッフ拡充には至らなかった

人材の拡充、育成強化

積極的に人材獲得を進める

3. 具体的な施策

(1) ナノマテリアル事業の成長スピードアップ ◆ 売上の拡大 技術戦略

43期

施策

44期

プリプレグや3Dプリンタ用フィラメントの評価を行った

製品ラインナップの拡充

プリプレグや3Dプリンタ用フィラメントをラインナップとして販売開始

2022年9月に福島双葉工場が竣工となり、本格生産に向けた立上げを実施。問題無く稼働できることを確認した

量産化本採用に向けた体制強化

本格生産開始

品質保証部を設立し、品質保証体制を整えた

品質保証体制の確立

ISO9001取得

サンプルの取得の迅速化及び評価設備の整備を行い、評価データの蓄積及び検証スピードが改善された

性能評価データの蓄積、検証のスピードアップ

データの蓄積と更なる検証のスピードアップを目指す

3名の技術スタッフを採用し育成強化

人材の拡充、育成強化

既存スタッフの育成強化を行い、増員も計画

東村山事業所



<営業>

- ・ 営業戦略の立案
- ・ 顧客対応
- ・ 生産指示

<研究開発・生産>

- ・ 新商品開発
- ・ プロセス・評価技術開発
及び福島双葉工場への移管
- ・ 試作生産
- ・ 中規模生産
- ・ 安全性チェック
- ・ 品質保証

福島双葉工場
2022年9月28日開設



<生産・出荷>

- ・ 生産・検査・出荷管理
- ・ リスクマネジメント
- ・ スケールアップ
- ・ 品質マネジメント

バックアップの検討



<協力会社等>

- ・ 生産
- ・ 加工
- ・ 材料／製品保管

地元雇用

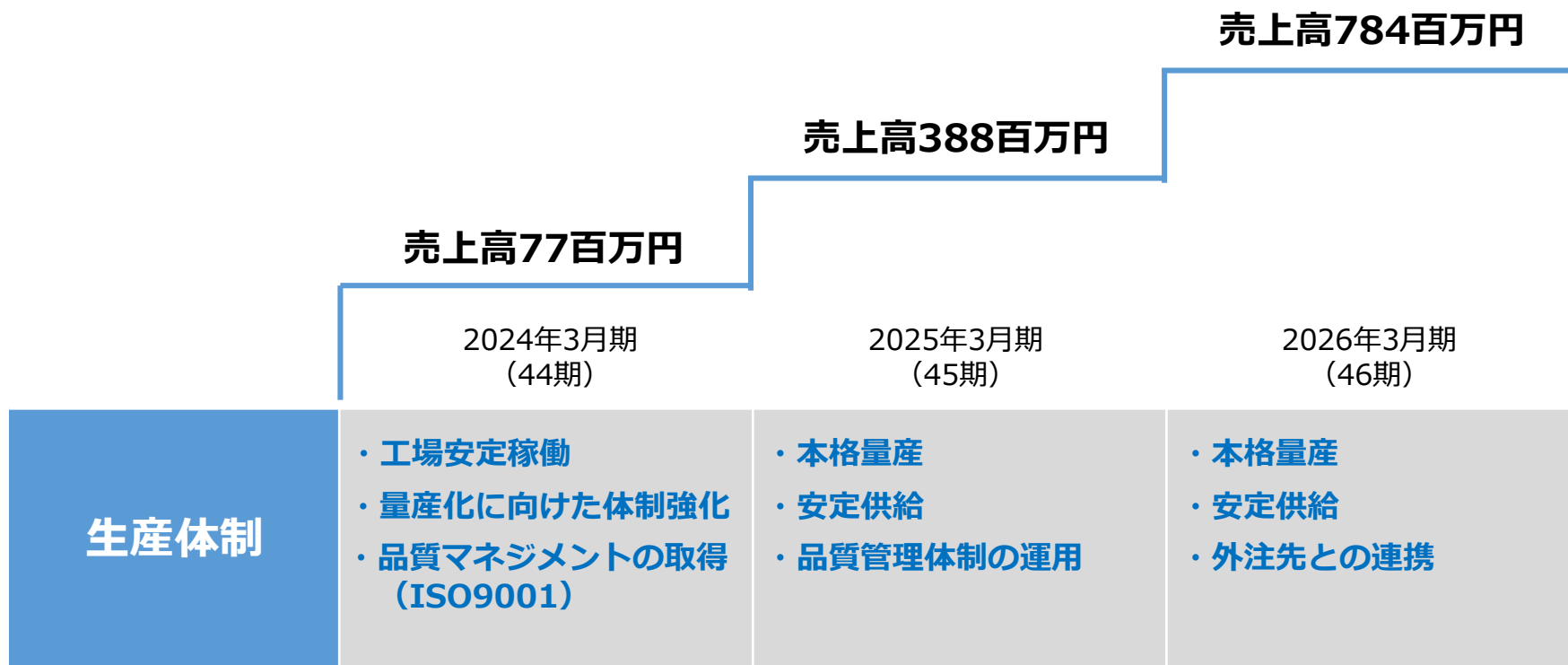


地域活性

3. 具体的な施策

(1) ナノマテリアル事業の成長スピードアップ

◆顧客の要求に応えられる生産体制の構築



3. 具体的な施策

(2) 断熱材事業の更なる成長



- ・ 前年に引き続き炉材の受注拡大に取り組む
第44期以降は、半導体不足による顧客側の部品や設備の調達難は解消され、受注増の可能性大
- ・ 既存顧客に対し現状購入製品以外の受注を獲得する
- ・ 横展開活動での新規顧客獲得を狙う
- ・ 断熱材に拘らない周辺商材の販売



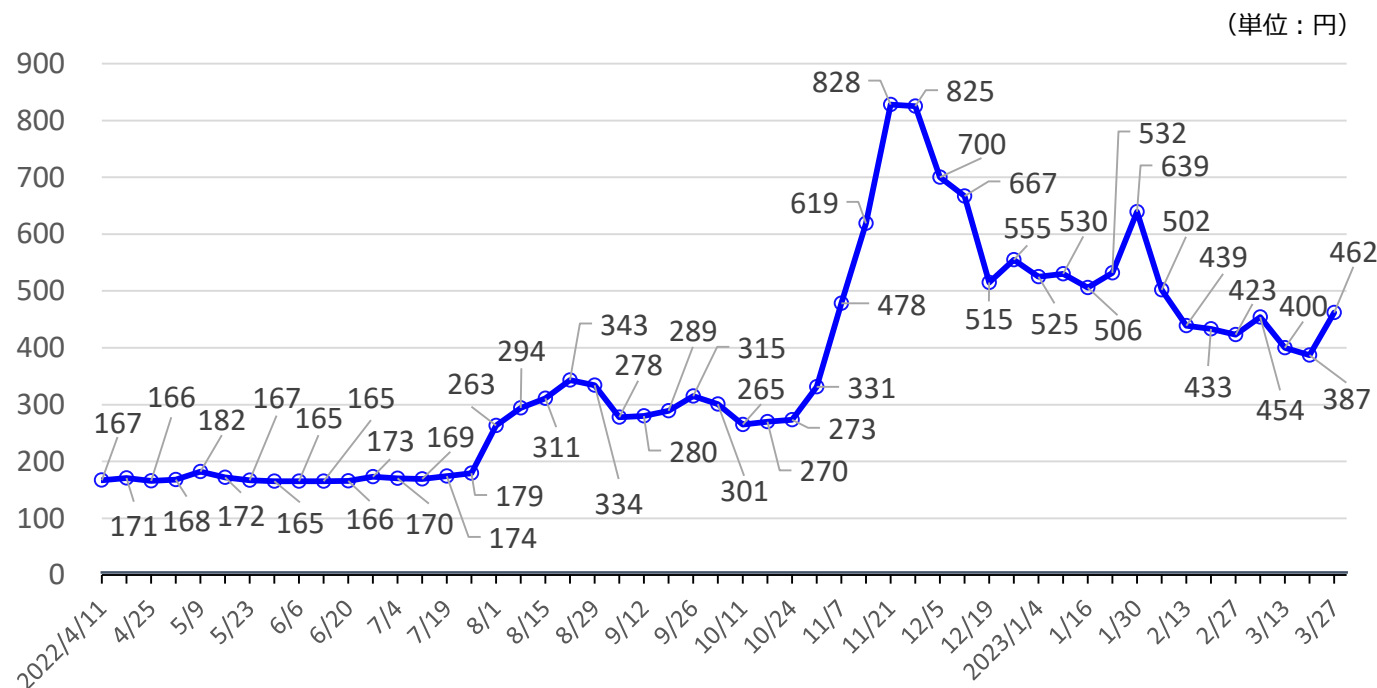
- ・ 太陽光発電パネル製造向け拡散炉用ヒーターモジュールの需要が拡大。太陽電池関連についての需要が拡大する見込み。
- ・ 2024年3月期上期に2億円程度の設備投資 ⇒実施済
※6カ月でキャッシュ回収見込み
- ・ 生産拠点の確保 ⇒阿爾美（蘇州）科技有限公司を設立
※自社拠点確保の検討 （2024年1月事業開始予定）

中国政府の方針転換・情勢をウオッチしながら、リスクを捉えた上での投資・回収を行う

計画目標を達成し、株価上昇を実現する

株価推移表

(2022年4月～2023年3月)



株価対策（中期計画）

- ・業績アップ
- ・出願特許の権利化
- ・ナノマテリアルの量産採用
- ・スキルマトリックスの開示 など

4. 計画目標

① 中期経営計画（連結）

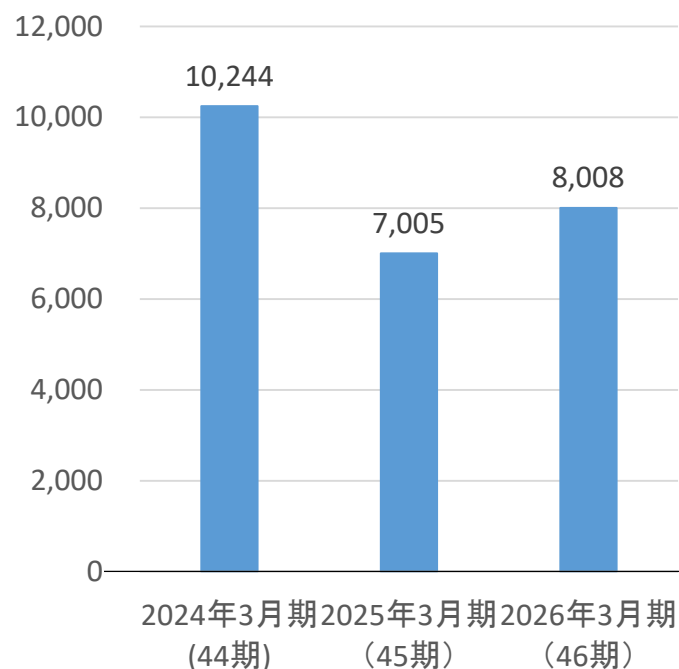
（単位：百万円）

	2024年3月期 (44期)	2025年3月期 (45期)	2026年3月期 (46期)
売上高	10,244	7,005	8,008
営業利益	2,540	1,257	1,615
営業利益率	24.8%	18.0%	20.2%
ROA	19.3%	8.2%	10.4%
ROE	29.1%	11.8%	14.4%

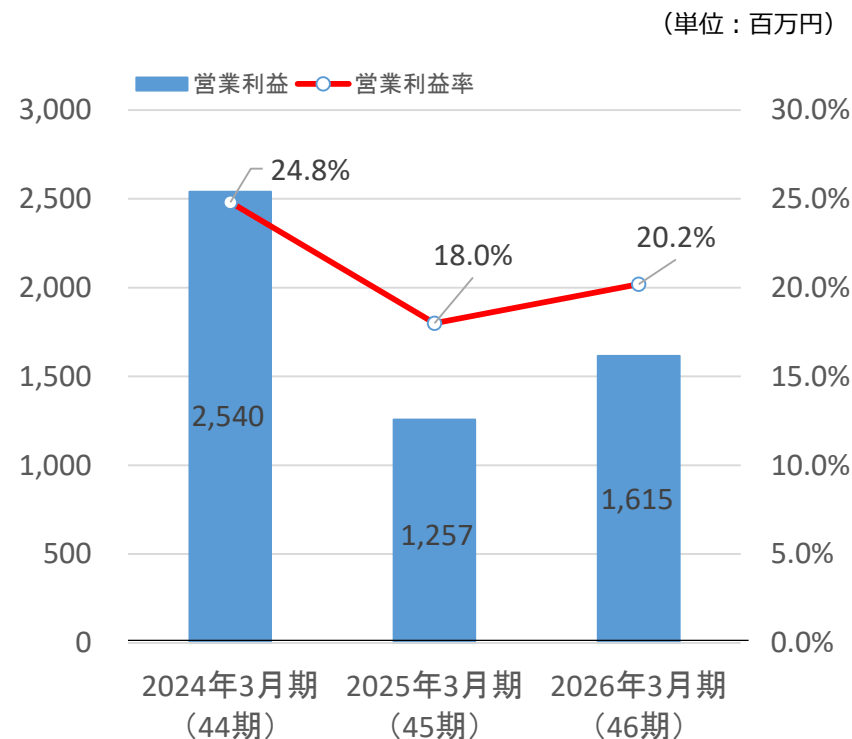
為替換算レート 1人民元 = 20.0円

4. 計画目標

②売上計画（連結）



③営業利益計画（連結）

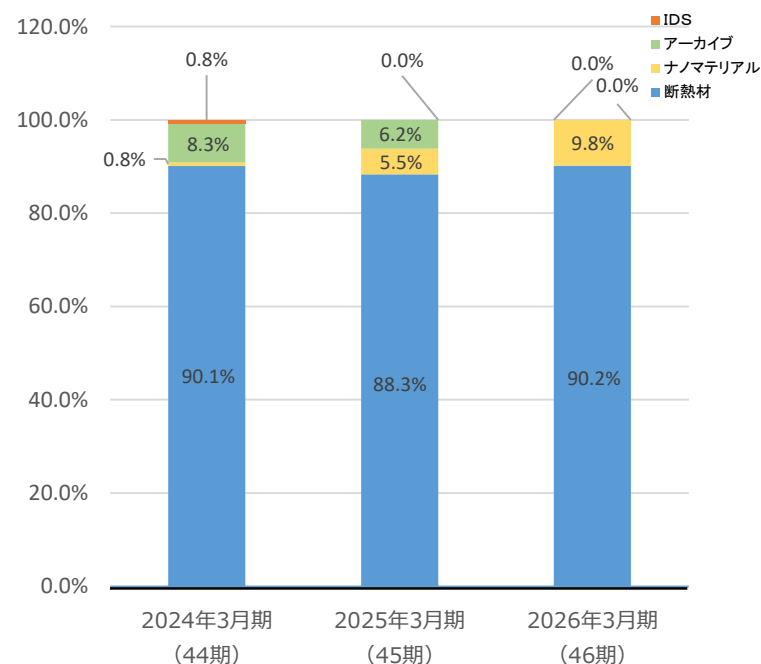


4. 計画目標

④ 事業別売上計画（連結）

（単位：百万円）

	2024年3月期 (44期)	2025年3月期 (45期)	2026年3月期 (46期)
断熱材	9,229	6,183	7,224
ナノマテリアル	77	388	784
アーカイブ	853	433	0
IDS	83	0	0
合 計	10,244	7,005	8,008



■ 注意事項 ■

当資料に掲載されている業績見通し、その他の今後の予測・戦略などに関する情報は、当資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で行った判断に基づくものです。

しかしながら実際には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生などにより、当資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社は、投資家の皆さまにとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいります。当資料記載の業績見通しのみに全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製または転送などを行わないようお願いいたします。

